

# 蒲鉾本舗高政・高橋正樹さん

ディレクター 宮崎厚志 | 30分 | 2011年

「正直、昔は嫌いだった。でも今は、24時間365日、女川のことを考えている」

創業75年、女川を代表する特産品、かまぼこを製造販売してきた蒲鉾本舗高政。震災からいち早く立ち上がった同社と四代目の高橋正樹さんは今、地域の牽引役として大きな役割を果たしている。

3月11日と、人々の命をつないだかまぼこについて。

女川復興に向けた5つの方策と、食材の安全性について。

そして、自分の人生を故郷に捧げる覚悟を決めた、震災後の心境について。

走り続ける地域の旗手が、自身の変化と町の未来を本音で語る。

## あいだのことば

監督 小森はるか | 64分 | 2011-12年

小森はるかと瀬尾なつみは2011年3月末から東北沿岸に通い始め、何度も同じ場所を訪れ瀬尾はテキスト、写真、スケッチで、小森は映像でそれぞれに記録を続けてきました。そこで出会った人たちは、私たちがすんなりと日常という時間の中で受け入れてくれました。その時に話されていた会話こそ、この大きな出来事の中で何よりも実感の持てる現実であったような気がします。通う度にその現実はいちいち少しずつ、またはがらりと姿を変えていました。その間に起きてしまっている何かを考えるためには、町の景色も、人々の表情も、言葉も、できるだけ見たままに留めておくこと、そしてどうにか形を歪めることなく誰かに伝えようとする必要があるのだと思います。この映像は1年間通った石巻市、陸前高田市に住む3人の方との会話の記録です。

## ●小さなメディア/当事者のメディア

2011年3月11日に東日本大震災が発生して以降、被災地の様子や被災後の人々の生活を撮影する動きが人々のあいだに広がっている。2011年5月より活動を開始した「3がつ11にちをわすれないためにセンター」（わすれん！）では、東日本大震災に関わる個人の映像記録の受け入れを行っている。ビデオカメラを携帯して目の光景や人々の様子を映像に収めようとする人々の行為の背景には人それぞれの切実さがある。その内容は、避難所での生活術や被災者へのインタビューや、何の説明もなく被災地を移動する車からただ車窓の映像をおさめたものもある。

人々が東日本大震災の当事者であるというとき、当事者としての層はそれぞれ異なっている。「震災復興アーカイブ」という公の場を開設し、人々の切実な思いから撮影される映像記録を「震災復興アーカイブ」の一部として受け入れる「わすれん」は、撮影せずにはいられない人々のある種個人的な行為を後から支えているといえる。

「わすれん！」では、映像記録を受け入れるだけでなく、センターを訪れる人々の様子を見ながら、映像を見たり撮ったりする人々が出会い、交流する場を積極的に設けてきた。そうした交流の中から、ある人にとっては何の変哲もない記録映像の景色が別の人にとっては大きな意味を持つという経験も得てきている。

被災地では、被害が深刻な地域に近づくほど、自身の被災経験を「それほどでもない」と語る傾向がみられる。このような人々の態度は、東日本大震災による死者を究極の「当事者」として位置付けようとする態度でもある。それが結果として自らの被災者としての当事者性を封印しようとするものでないことを願っている。

(京都大学地域研究統合情報センター 西 芳実)

## 五感とファインダー×東日本大震災④ | シネマ+トーク 3

2013年12月7日(土) 14:00▶16:30 (開場 13:30)

東京経済大学 4号館 1階 D101 (国分寺駅南口から徒歩12分)

入場無料 申込不要 (先着400名)

◎上映後「3がつ11にちをわすれないためにセンター」スタッフの甲斐賢治さんによるトークを行います



かい・けんじ ▶ 1963年大阪生まれ。せんだいメディアテーク企画・活動支援室室長。NPO法人「記録と表現とメディアのための組織remo」、NPO法人「地域文化に関する情報とプロジェクト recip」に参加。「remo」では、「個人がメディアを活用し、自らのための環境を作り出す力の創出」を、「recip」では「地域文化の地産地消サイクルの起動」を目標とする。NPO法人「アートNPOリンク」、NPO法人「芸術生活研究所 hanare」に参加、社会活動としてのアートに取り組む。2010年春より、現職。

【参考】公開インタビュー <http://asahiartsquare.org/ja/schedule/post/789/>



せんだいメディアテーク ▶ 美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるようお手伝いする公共施設。伊東豊雄建築設計事務所設計。2001年開館。仙台市青葉区春日町2-1  
022-713-3171  
<http://www.smt.jp/>

主催 東京経済大学「五感とファインダー×東日本大震災」実行委員会 <http://gokafa.blogspot.jp/>  
問合せ先 東京都国分寺市南町1-7-34 東京経済大学  
コミュニケーション学部 川浦康至研究室 (ykawa@tku.ac.jp)、広報課 (042-328-7724)